

# 北九州市立大学生の大学・学部の選択要因と満足度に関する調査

鈴木 優 香

## 1. はじめに

大学数の増加と少子化による18歳人口の減少により、2000年には大学進学率は約5割に達し、大学進学は特別なものから希望すれば可能なものとなった。このような、いわゆる大学全入時代においては、単に大学に入学・卒業したという事実ではなく、大学において何を学ぶか、学んだことを自身のキャリアにつなげることができるか、といった学びの内容がますます重要となると考えられる。最近の中央教育審議会の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」においても、学修時間の確保や体系的な教育プログラムの実施など、学生に能力を身につけさせる方策が提言されている。

一方、近年では、学生のやる気の低下や就職先のミスマッチなど新たな課題も指摘されており、大学生が学校で学びたいことを学べているとは限らない状況がうかがえる。先行研究では、高校生の約半数はなりたいた職業のないまま進学していること、この動機付けの欠如が主体的な学び意欲の低下の一因となっているであろうこと、専攻分野によって学生の意欲や進学動機は異なっていることなどが指摘されている。

そこで、学生は大学に何を求めて進学しているのか、大学は学生の期待に応えているのかを明らかにすることを目的に、北九州市立大学生へのアンケート調査を実施した。この結果をもとに、大学・学部の選択要因と大学に対する満足度の相関関係についても解析した。

## 2. 北九州市立大学

今回の調査を実施した北九州市立大学は、学部として、外国語学部（2013年度学生数1,134名）、経済学部（1,269名）、文学部（985名）、法学部（1,116名）、国際環境工学部（1,112名）、地域創生学群（430名）、大学院として、法学研究科（10名）、人間文化研究科（1名）、社会システム研究科（86名）、国際環境工学研究科（295名）、マネジメント研究科（58名）を有し、教員約250名が学生計約6,500名に教育を行っている。

歴史は比較的早く、1946年に創立した小倉外事専門学校を前身とし、1950年に北九州外語大学として創立された。その後、小倉南区北方において、文系学部のみを有する大学として発展してきたが、2001年の北九州学術研究都市の設立にあわせ、理系学部として国際環境工学部を若松区ひびきのに開設した。また、2009年には、現場実習を通じて、地域の再生と創造を担う人材を育成することを目的とした、地域創生学群を開設している。

偏差値は50～60ぐらいであり、歴史のある外国語学部が比較的高い一方で、新設の国際環境工学部が低くなっている。福岡県内からの進学が約45%を占め、九州、中国圏など近隣地域から進学する学生が多い。国外からの入学について、中国人留学生が850人を超えており、

学生の約15%をしめている。

また、北九州市立大学ではグローバル化と地域連携を戦略的に進めており、地域創生学群や留学生支援のほか、副専攻としてGlobal Education Programや持続可能な地域づくりに貢献する環境ESDプログラムを設置している。これらの専攻は文部科学省の支援事業にも選定されている。このような活動は、2012年度の日経グローバル誌の大学地域貢献度ランキングにおいて全国第3位、日経BPコンサルティング調査の大学ブランドイメージのうち語学に長けているで九州地方第5位との評価がなされている。

### 3. 調査方法

北九州市立大学の学生に対し、2013年7月に、大学・学部を選んだ理由や大学に対する満足度等に関するアンケート調査を実施した。アンケート項目の一部は、ベネッセの「進路選択に関する振り返り調査」<sup>(1)</sup>、「大学生の学習・生活実態調査」<sup>(2)</sup>を参考に作成した。調査方法は、①授業時間中のアンケート用紙の配布（1年生2クラス、3年生1クラス）、②大学の掲示板に掲載したウェブ調査、③キャリアセンターでのアンケート用紙の配布、の3通りの方法で実施し、回答数の合計は256件だった。属性は表1のとおりであり、学年と学部・学科の分布は、アンケートを実施した授業を履修していた、1年生文学部人間関係学科、国際環境工学部に偏った。これら以外の分布については、2013年度の学生集団の分布（男性率47%、福岡県出身者率46%、自宅率37%、日本学生支援機構の奨学金受給率51%）とほぼ同様であった。

表1 サンプルの属性

性別	男性		女性		その他（無回答含）			
	122	48%	133	52%	1	—		
学年	1年		2年		3年		4年	
	197	77%	15	6%	27	11%	17	7%
学部・学科	外国語学部				地域創生学類			
	英米学科		中国学科		国際関係学科		地域創生学群	
	6	2%	5	2%	9	4%	19	7%
学部・学科	経済学部				法学部			
	経済学科		経営情報学科		法律学科		政策科学科	
	11	4%	27	11%	17	7%	3	1%
学部・学科	文学部				国際環境工学部			
	比較文化学科		人間関係学科		エネルギー循環化学科		機械システム工学科	
	4	2%	66	26%	18	7%	5	2%
学部・学科	国際環境工学部							
	情報メディア工学科		建築デザイン学科		環境生命工学科			
	11	4%	35	14%	20	8%		

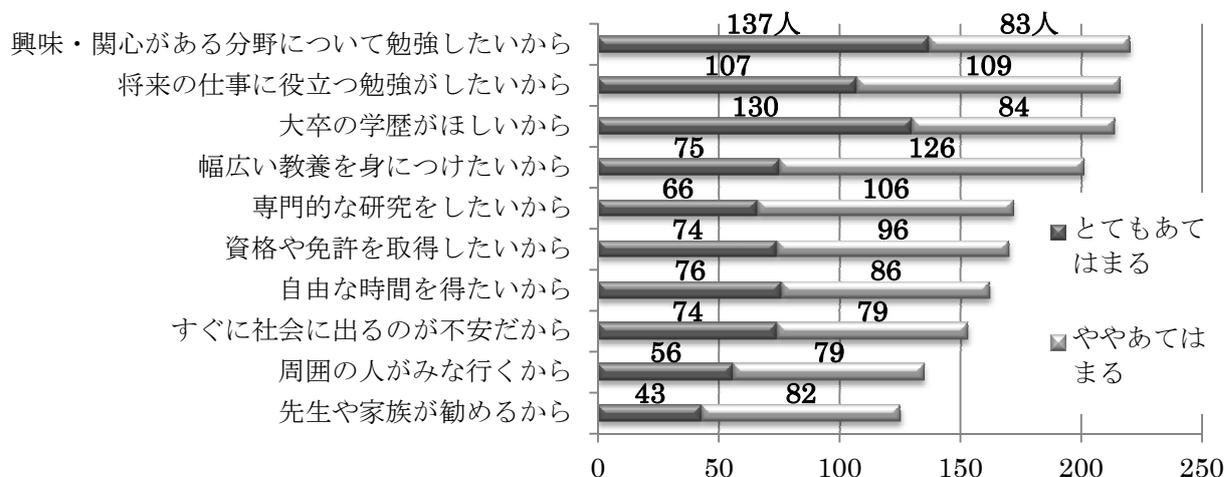
出身地	福岡		山口		熊本		大分	
	131	51%	16	6%	16	6%	15	6%
	広島		長崎		鹿児島		愛媛	
	14	5%	8	3%	8	3%	7	3%
	宮崎		沖縄		佐賀		その他（無回答含）	
	5	2%	5	2%	5	2%	24	—
北九大の志望順位	第一志望		第二志望		第三志望以下		その他（無回答含）	
	149	58%	49	19%	55	21%	3	—
現在の住まい	自宅		一人暮らし		その他（無回答含）			
	110	43%	136	53%	10	—		
学生支援機構の奨学金	もらっている		もらっていない		その他（無回答含）			
	131	51%	123	48%	2	—		

## 4. 結果

### （1-1）大学の進学理由

アンケートの前半では、大学へ進学する前の選択について質問した。はじめに、大学進学の動機について聞いたところ、半数以上が「興味・関心がある分野について勉強したいから」、「大卒の学歴がほしいから」について、「とてもあてはまる」を選んだ。ついで、「将来の仕事に役立つ勉強がしたいから」、「幅広い教養を身につけたいから」が選ばれており、「ややあてはまる」もあわせると、上記4つは8割を超える回答者に支持されている。一方で、「周囲の人がみな行くから」、「先生や家族が進めるから」についても約半数が選択しており、回答者は、複数の理由により大学に進学していることが分かった。

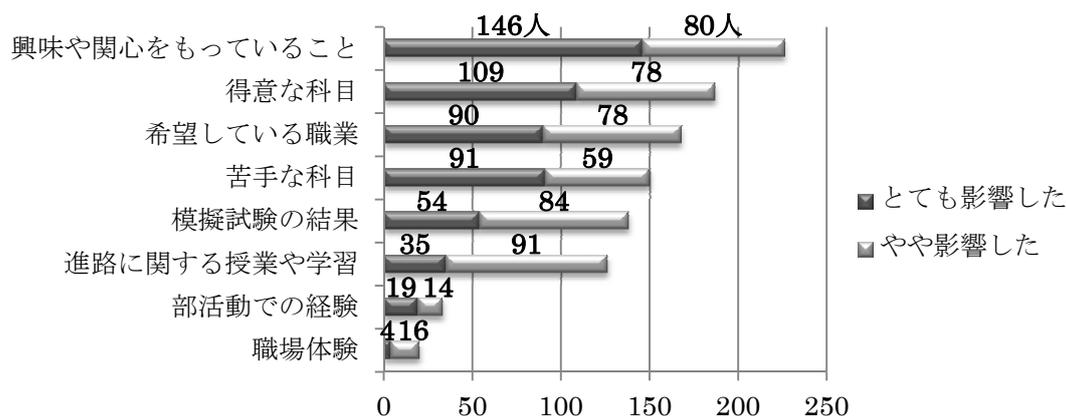
表2 大学へ進学した理由



### (1-2) 志望学部・学科の選択理由

次に志望学部・学科を決めた理由について質問したところ、「興味や関心をもっていること」を選んだ回答者が、「とても影響した」、「やや影響した」をあわせると約9割と圧倒的に多かった。ついで、「得意な科目」、「希望している職業」、「苦手な科目」となっていた。「部活動での経験」や「職場体験」は、ほかの選択肢に比べて、影響したとの回答は顕著に少なかった。

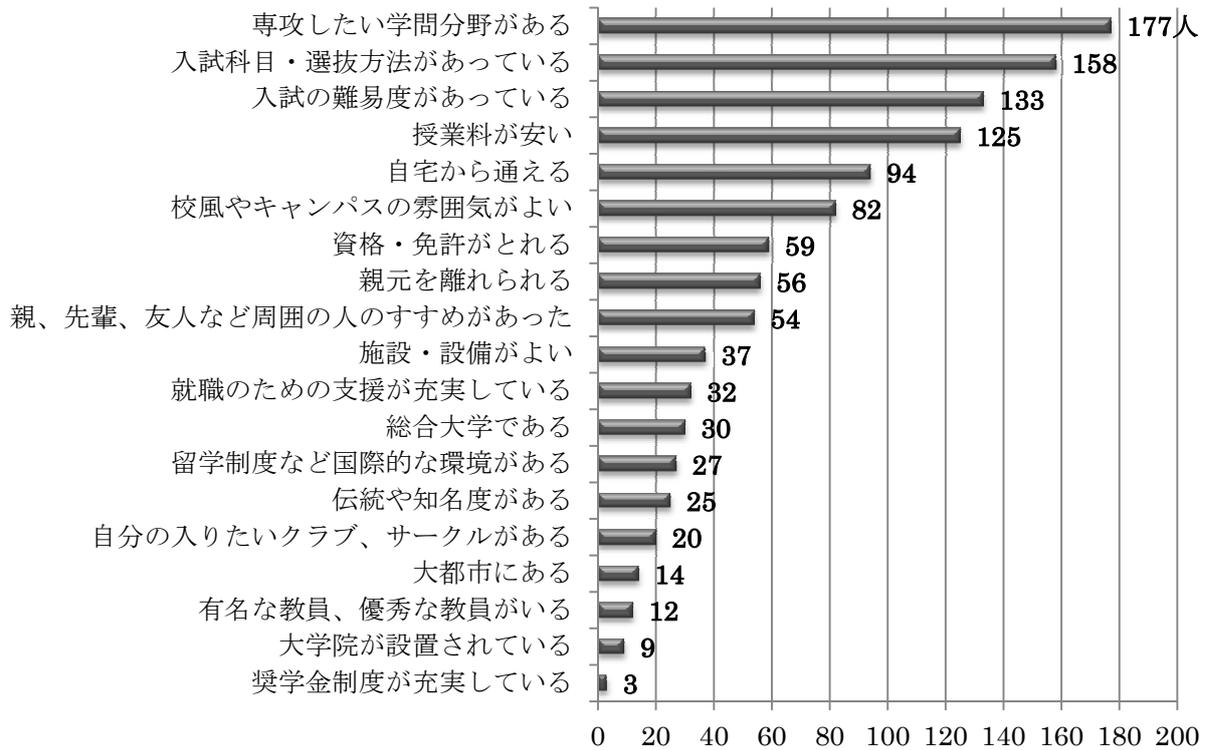
表3 志望学部・学科を決めるときに影響したもの



### (1-3) 北九州市立大学の選択理由

ここでは、現在通っている大学や学部・学科に進学を決定する際に重視したことを尋ねた。「専攻したい学問分野がある」、「入試科目・選抜方法があっている」、「入試の難易度があっている」、「授業料が安い」をあげた回答者が多かった。ついで、「自宅から通える」が多くなっているが、「親元を離れられる」という理由も一定数選択されている。また、「校風やキャンパスの雰囲気が良い」、「親、先輩、友人などの周囲の人のすすめがあった」など、北九州市立大学によいイメージがあることが窺える選択肢も選ばれている。一方、就職支援や国際化の取組、有名な教員や大学院の設置を重視したとの回答は少なかった。このほか、自由記述式回答で、複数の学生が地域創生学群に魅力を感じたことを選択理由としてあげていた。

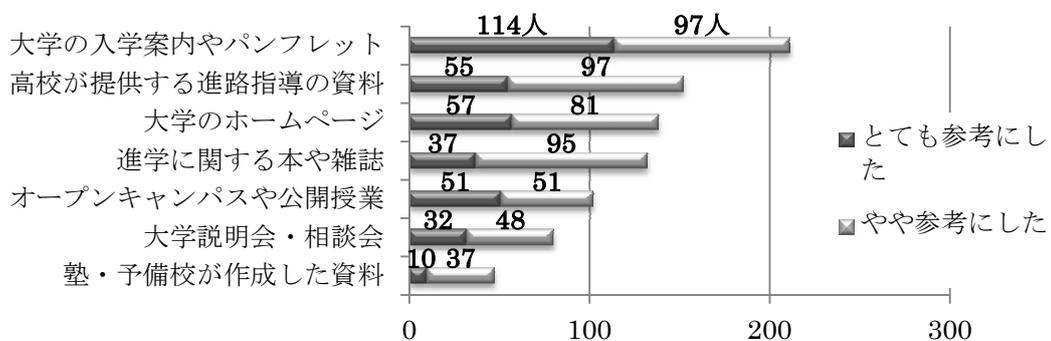
表4 現在通っている大学や学部・学科に決めるときに重視したこと



(1-4) 参考にした情報

あわせて、大学を決定するにあたり参考にした情報についても聞いた。「大学の入学案内やパンフレット」を参考にしたとの回答が最も多く、約8割が参考にしていていた。ついで、「高校が提供する進路指導の資料」、「大学のホームページ」が参考にされていた。大学関係者と直接話しができるが、負担や制約も大きい「オープンキャンパスや公開授業」と「大学説明会・相談会」を参考にした回答者は半数以下だった。自由記述式回答では、教師や先輩などの知人の情報や勧めを参考にしたという意見が複数あった。

表5 大学に関する情報源



### (2-1) 大学キャンパス生活に感じるギャップ

アンケートの後半では、現在の大学キャンパス生活についてどのように感じているかについて調査した。入学前に考えた大学キャンパス生活と実際のキャンパス生活のギャップについて聞いたところ、約7割がギャップを感じる事が「よくある」、「時々ある」と回答した。その理由是多岐にわたり、また、複数の理由をあげた回答者も多かったが、「授業の進め方・教員の指導方法」が最も多く、ついで「授業の難易度」、「選んだ学部・学科と自身の関心・興味」が選択されている。また、自由記述式回答では、もっと楽だと思った、レポートの量が多い、自由な時間が少ないなど、大学生は時間があるという一般的な予想にあてはまらないことに対する不満が国際環境工学部1年生を中心に訴えられていた。一方で、高校より厳しくないといった意見もあり、選んだ学部・学科や個人で感じ方が異なっていた。

表6 大学キャンパス生活に対して入学前後でギャップを感じることの有無とその理由

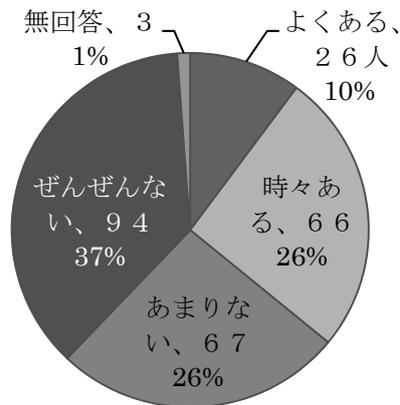


授業の進め方・教員の指導方法	89人
授業の難易度	62
選んだ学部・学科と自身の関心・興味	54
クラブ・サークル活動	49
選んだ学部・学科と将来の進路	38
友人関係	36

### (2-2) 学部・学科の選択

さらに、選択した専攻分野で、学びたいことが学べているかを調査するため、異なる学部・学科に入ったほうがよかったと思うことがあるかを聞いた。「ぜんぜんない」、「あまりない」という回答が大多数を占め、自身の専攻分野の選択について概ね満足していることが予想される結果となっていた。「よくある」と回答した場合について、その理由を自由記述式として聞いたところ、心理学に興味をもつようになったから、他学部の授業がおもしろかったからなど大学入学後に興味関心が変わったケース、第一志望の学部ではないから、自分の志望ではなかったからなど当初から入学した学部・学科を希望していなかったケース、つまらないから、ほしい資格がとれないから、留学制度がととのっていないからなど現在の学部・学科に不満があるケースに大別された。

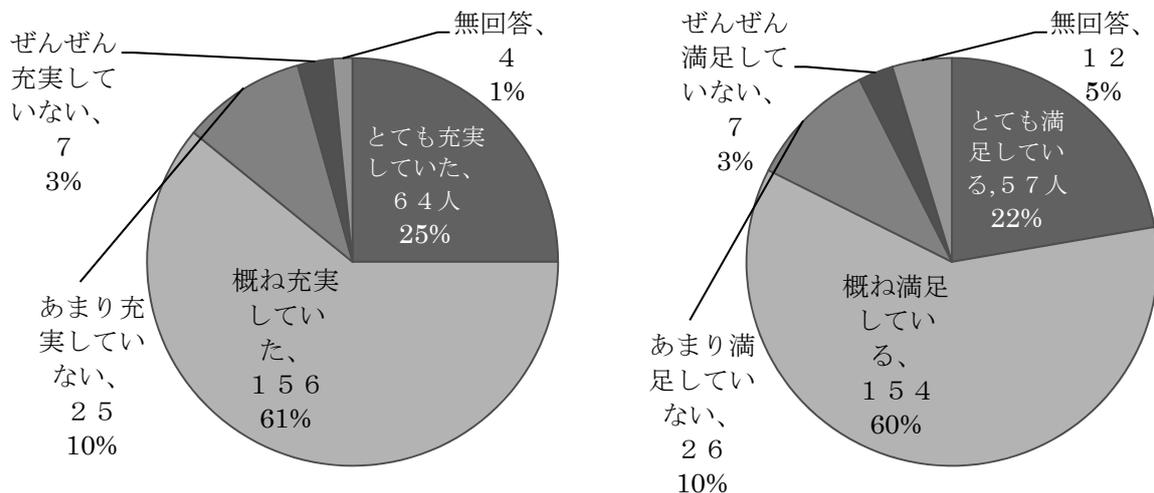
表7 違う学部・学科に入ったほうがよかったと思うことの有無



(2-3) キャンパス生活の充実度と北九州市立大学への満足度

また、キャンパス生活の充実度と北九州市立大学への満足度を聞いたところ、8割を超える回答者が、充実していた、満足していると回答した。北九州市立大学に満足していない理由を自由記述形式で聞いたところ、つまらない、やりたいことができないなど、キャンパス生活の充実度との相関が示唆される理由、想像していたものと違うなど、入学前の予想とのギャップに起因する理由、校舎の古さや授業のやり方など提供されるサービスへの不満に関する理由があげられた。

表8 これまでの大学キャンパス生活の充実度と北九州市立大学への満足度



### (3-1) 北九州市立大学生の海外生活への関心

最後に、現在世界中でグローバル化が進展していること、また、北九州市立大学が国際化を強みの一つとしていることから、学生に海外への興味についても尋ねた。将来、海外で働く経験を強くしたいと思う回答者は2割(52名)、やや働きたいは3割(75名)、あまり海外で働きたくないは3割(75名)、ぜんぜん働きたくないは2割(51名)だった。

## 5. 統計解析

上記のデータを用い、ロジスティック回帰分析法により、入学した大学や選んだ専攻分野に満足している学生はどのような学生なのかについて、詳細な解析を試みた。解析ソフトはSTATISTICALを用いた。

### (1) 北九州市立大学に対する満足度

まず、大学に対する満足度に着目し、満足度とキャンパス生活への充実感や満足度と入学前後のイメージギャップについて相関係数を求めた(表9)。従属変数を満足度とし、一定のサンプル数を確保するため、北九州市立大学に「とても満足している」を1とこれ以外(「まあ満足している」「あまり満足していない」「ぜんぜん満足していない」)を0の2群に分けた。説明変数に、性別、学年、学部、入学時の志望順位をおいた場合(Null Model)、志望順位のみ有意な相関があり、北九州市立大学が第一志望だった場合は、その他の場合に比べて、約2.3倍「とても満足している」が選択されていた。

これに、充実度を変数として追加した場合(Model 1)、キャンパス生活が「とても充実している」と回答した回答者は、これ以外を選んだ回答者に比べて、約9.3倍北九州市立大学にも「とても満足している」ことが示された。

イメージギャップとの相関(Model 2)では、入学前に考えた大学生活と実際のキャンパス生活にギャップを感じることを「あまりない」「ぜんぜんない」とした回答者は、「よくある」「時々ある」とした回答者に比べて、約1.8倍北九州市立大学に「とても満足している」という結果が得られた。

また、何にギャップを感じた場合に満足度が低くなるのかを調べた(Model 3)ところ、「授業の進め方・教員の指導方法」にギャップを感じている場合は、「とても満足している」と回答するオッズが、約1/2に下がっていた。

なお、4.(1-1)～(1-4)の各項目を説明変数とした解析も実施したが、統計的に有意な相関は認められなかった。

表9 北九州市立学に対する満足度との相関関係

		Null Model		Model1		Model2		Model3	
		オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数
切片			-2.06 ***		-2.41 ***		-2.28 ***		-1.59 **
学年	1年生=1、ほか=0		0.24		0.13		0.19		0.11
性別	女=1		0.11		-0.12		0.16		0.07
志望	第一志望=1、ほか=0	2.22	0.80 *		0.60	2.25	0.81 *	2.50	0.92 **
学部	国際環境工学部=1、ほか=0		0.20		-0.16		0.26		0.27
充実度	とても充実=1、ほか=0			9.33	2.23 ***				
ギャップ	ぜんぜんないまたはあまりない=1、ほか=0					1.77	0.57+		
以下の項目についてギャップを感じた場合=1									
	選んだ学部・学科と自身の関心・興味								-0.59
	選んだ学部・学科と将来の進路								-0.01
	授業の難易度								-0.10
	授業の進め方・教員の指導方法							0.42	-0.88 **
	クラブ・サークル活動								-0.25
	友人関係								-0.07
	対数尤度 LR		-122.90		-102.28		-121.47		-118.12
	尤度比カイ2乗値 LR chi2		6.12		47.36		8.97		15.67
	有意確率 Prob > chi2		0.19		0.00		0.11		0.11
	疑似決定係数 Pseudo R2		0.02		0.19		0.04		0.06

有意水準： + p < 10%、\* p < 5%、\*\* p < 1%、\*\*\* p < 0.1%

## (2) 専攻分野の選択に対する満足度

次に、専攻分野の選択に対する満足度と専攻分野選択理由、入学前後のイメージギャップの相関を解析した(表10)。従属変数は、現在通っている学部・学科とは異なる学部に入ったほうがよかったと思うことが「あまりない」と「ぜんぜんない」を1とし、「よくある」と「時々ある」を0とした。説明変数に、性別、学年、学部入学時の志望順位をおいたNull Modelでは、1年生の場合で1.8倍、第一志望だった場合に1.6倍、違う学部に入ったほうがよかったと思うことが「あまりない」、「ぜんぜんない」を選んでいった。

学部・学科を決めるときに影響した項目を説明変数に加えると(Model1)、「興味や関心をもっていること」が「とても影響した」場合、その他の場合に比べて、約3倍、現在通っている学部を肯定的にとらえる選択肢を選んでいった。

また、入学前後のイメージギャップとの関連について(Model2)、「選んだ学部・学科との自身の関心・興味」に加え、「授業の難易度」にギャップを感じている場合、現在の学部・学科とは異なる学部に入ったほうがよかったと思うことが「あまりない」または「ぜんぜんない」と回答するオッズが約1/2に減っていた。

表10 専攻分野の選択に対する満足度（学部・学科を変更したいとは思わない）との相関関係

		Null Model		Model1		Model2	
		オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数
切片			-0.02				0.34
学年	1年生=1、ほか=0	1.87	0.63 +	1.95	0.67 +		0.52
性別	女=1		-0.33		-0.42		-0.33
志望	第一志望=1、ほか=0	1.58	0.46 +		0.39		0.39
学部	国際環境工学部=1、ほか=0		0.02		-0.12		-0.07
得意な科目					0.35		
苦手な科目					-0.26		
興味や関心をもっていること	とても影響した場合			2.92	1.07 ※※※		
希望している職業	=1、ほか=0				0.20		
模擬試験の結果					-0.52		
進路に関する授業や学習					0.28		
選んだ学部・学科と自信の関心・興味						0.50	-0.69 ※
選んだ学部・学科と将来の進路							0.11
授業の難易度	ギャップを感じた場合					0.43	-0.85 ※
授業の進め方・教員の指導方法	=1						0.48
クラブ・サークル活動							0.08
友人関係							-0.26
対数尤度 LR		-160.44		-149.44		-154.66	
尤度比カイ2乗値 LR chi2		8.06		30.05		19.62	
有意確率 Prob > chi2		0.09		0.00		0.03	
疑似決定係数 Pseudo R2		0.02		0.09		0.06	

有意水準：+ p < 10%、※ p < 5%、※※ p < 1%、※※※ p < 0.1%

## 6. 結果の考察

今回の調査結果から推論できること、分かったことは以下のとおりである。

- (1) 学生は大学に何を求めているかについて、北九州市立大学生の大学への進学理由は、複合的である。専門分野の勉強や研究をしたい、将来の仕事に役に立つ勉強がしたい、幅広い教養を身に付けたいといった学びを理由に進学する学生が大多数であるが、同時に、学歴が欲しい、自由な時間を得たい、すぐに社会に出るのが不安といった勉強以外の目的も持っており、学びへの意欲が薄い学生も多い可能性が示唆された。今回の調査では、「大卒の学歴がほしいから」を選んだ回答者は8割、「自由な時間を得たいから」を選んだ回答者は6割と、2004年の全国調査がそれぞれ7割、4割だった結果と比較して1割以上高かった。これが北九州市立大学の特徴をあらわしているのか、この10年間に全国的な変化があったのかを確かめるためには、ほかの大学でもアンケートを実施するなど更なる調査が必要である。
- (2) 学生が大学に満足しているかについて、北九州市立大学生の8割以上の学生は、現在の大学生活を充実していると感じており、満足もしていた。また、充実感と満足度の相関は非常に高かった。授業の進め方や教員の指導方法について、入学前の希望や予想と異なっ

ている場合、満足度が有意に下がっており、どのような授業を実施するかは学生の大学に対する満足度に大きな影響があることが示唆された。北九州市立大学が第一志望だった学生では、希望した大学に入学できたためか、満足度は高くなる傾向が示されたが、ほかには入学前の状況で大学への満足度に影響を与える要因は見いだせなかった。

- (3) 学生の専攻分野の選択理由について、「興味や関心をもっていること」とした学生が約9割と、自身の学びたいことにもとづき、学部・学科が選ばれていることが分かった。一方、希望している職業が影響した学生は約6割と職業意識が低いまま進学している学生も多いことが分かった。また、苦手な科目や模擬試験の結果などの消去法的方法で学部・学科を選択した学生も多かった。相関分析により、興味や関心と専攻分野の一致は、現在の学部・学科に対する満足度に大きな影響を与えるという結果がでており、高校生のうちに、自身が何に興味や関心があるのかをじっくり考えることが重要であることが推察される。
- (4) 大学を決める際に重視したこととして、北九州市立大学では「授業料が安い」、「親元を離れられる」を選んだ学生の割合が高く、ベネッセ全国調査の倍以上であった。授業料、生活費の安さからか、親元を離れたい学生も北九州市立大学に魅力を感じていることが分かる。ちなみに、「自宅から通える」の割合は全国平均とほぼ同じである。
- (5) 入学前の情報について、パンフレットを参考にした学生が約8割と多いものの、パンフレットで強調されている就職支援や国際的な環境を選択理由とした学生は少なかった。就職支援については多くの大学のパンフレット記載されており、パンフレットだけでは他大学との差が分かりにくいためではないだろうか。このほか、北九州市立大学の特徴である地域創生学群が、現場で実務を通じた学習をしたいという学生を惹きつけていることや、先輩等の北九州市立大学を勧める者の存在は受験生に大きな影響を与えていることが分かった。
- (6) 自由記述欄では、今年度はじめて実施した北方一ひびきのキャンパス交流DAY<sup>(3)</sup>について、講義を受けるためにひびきのから北方に移動するのは時間の無駄であるとの意見が多く寄せられた。北方キャンパスの文系学部の学生とひびきのの理系学部の学生の交流を後押しするためには、一緒に作業する機会を積極的に創出する必要があり、プロジェクト型の授業を取り入れるなどの工夫が必要だろう。また、校舎に対する不満も多かったため、計画的な整備が望まれる。

## 7. まとめ

本研究では、大多数の北九州市立大学生は、自身の興味や関心にもとづき学部・学科を選択し、将来のために学びたいという意識を持って大学に入学していることが示された。一方で、学びの目的をはっきりさせないまま大学に進学し、入学後に自身の興味・関心と違った学部に進学してしまったことに気付く学生も一定数いることが明らかになった。大学への満足度は高く、北九州市立大学は総じて学生の期待に応えていると考えられるが、授業の内容に不満がある場合、大学への満足度が下がるということが示唆されるなど、改善点もあることが見

出せた。また、北九州市立大学での調査結果は、全国調査の結果と大きくは変わらなかった。

大学や専攻分野への満足度を規定する要因の解析については、質問の焦点が絞られていなかったためか、統計的に有意な相関関係がない項目が多かった。また、調査対象が一大学のため、一般化や比較が出来なかった。今後は、アンケートを学びに関する質問に絞るとともに、複数の大学で実施することにより、学生の進路選択課程と大学における学びへのやる気や満足度の関係を明らかにしていきたい。

## 参考文献

- 1) 「我が国の高等教育の将来像」(文部科学省中央教育審議会答申), 平成17年1月
- 2) 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(文部科学省中央教育審議会答申), 平成24年8月
- 3) 「大学生の学習意欲と学力低下に関する大学教員の意識についての調査研究」石井秀宗ほか, 大学入試センター-研究紀要, 平成17年
- 4) 「新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移」(厚生労働省), 平成25年10月
- 5) 「高校生・大学生は大学に何を求めているのか」山下仁司, ベネッセVIEW21大学版 2012年度 特別号 Vol.3
- 6) 「公立大学法人北九州市立大学2014」(受験生向けの大学案内パンフレット)
- 7) 「平成17年度経済産業省委託調査 進路選択に関する振り返り調査—大学生を対象として—」(ベネッセ教育総合研究所)
- 8) 「第2回 大学生の学習・生活実態調査 2012年」(ベネッセ教育総合研究所)

## 補注

- (1) 2004年に行われた全国の4年制大学に通う大学生(有効回答数6,463)に対する進路選択に関連する要因のアンケート調査。アンケート項目のうち、大学への進学理由、進路選択を考えるとときに影響した要因、参考にした情報源についての結果は以下のとおり。

### 《大学への進学理由》

将来の仕事に役立つ勉強がしたいから「とてもあてはまる」59.8%「ややあてはまる」27.0%/専門的な研究をしたいから「とてもあてはまる」40.7%「ややあてはまる」36.8%/幅広い教養を身につけたいから「とてもあてはまる」36.4%「ややあてはまる」39.7%/大卒の学歴が欲しいから「とてもあてはまる」28.7%「ややあてはまる」38.5%/資格や免許を取得したいから「とてもあてはまる」43.3%「ややあてはまる」23.1%/すぐに社会に出るのが不安だから「とてもあてはまる」21.7%「ややあてはまる」34.3%/自由な時間を得たいから「とてもあてはまる」15.3%「ややあてはまる」26.9%/周囲の人がみな行くから「とてもあてはまる」13.9%「ややあてはまる」27.2%/先生や家族が勧めるから「とてもあてはまる」12.2%「ややあてはまる」24.1%

### 《進路を決めるときに影響したこと》

興味や関心をもっていること「とても影響した」73.1%「やや影響した」19.1%/得

意な科目「とても影響した」45.7%「やや影響した」31.4%/希望している職業「とても影響した」47.2%「やや影響した」24.0%/苦手な科目「とても影響した」26.6%「やや影響した」31.3%/模擬試験の結果「とても影響した」20.3%「やや影響した」35.8%/進路に関する授業や学習「とても影響した」10.9%「やや影響した」30.8%/部活動での経験「とても影響した」6.0%「やや影響した」7.8%/職場体験「とても影響した」2.4%「やや影響した」4.6%

《参考にした情報源》

大学の入学案内やパンフレット「とても参考にした」54.5%「やや参考にした」34.6%/進学に関する本や雑誌「とても参考にした」32.8%「やや参考にした」42.2%/高校が提供する進路指導の資料「とても参考にした」29.2%「やや参考にした」43.1%/オープンキャンパス「とても参考にした」31.9%「やや参考にした」23.5%/大学説明会・相談会「とても参考にした」27.1%「やや参考にした」26.4%/大学のホームページ「とても参考にした」20.1%「やや参考にした」28.0%/塾・予備校が作成した資料「とても参考にした」16.4%「やや参考にした」28.3%

- (2) 2012年に全国の4年制大学に通う大学生（有効回答数4,911）に対して実施された大学の学習・生活に関する意識・実態に関するアンケート調査。受験する大学の選択に関するアンケート項目の結果は以下のとおり。

「興味のある学問分野があること」62.1%「入試難易度が自分に合っていること」48.9%「自宅から通えること」32.9%「入試方法が自分に合っていること」32.0%「世間的に大学名が知られていること」26.1%「キャンパスの雰囲気が良いこと」23.8%「取りたい資格や免許が取得できること」22.9%「就職状況が良いこと」22.5%「経済的な負担が少ないこと」20.5%「キャンパスライフが楽しそうなこと」17.8%「先生のすすめ」16.8%「親のすすめ」15.0%「都会にあること」12.2%「合格が早く決まること」10.5%「試験日や試験会場が多く、受験しやすいこと」7.5%「親元を離れられること」6.7%「先輩のすすめ」1.6%

- (3) 北方ーひびきのキャンパス交流DAYは、北方キャンパス（文系学部）とひびきのキャンパス（国際環境工学部）の学生交流を促進することを目的に、ひびきのキャンパスの1年生が週1回、北方キャンパスにバスで移動し、北方キャンパスの学生と同じ授業を履修する取組。

【調査票】

1. はじめに、あなたのバックグラウンドについてお伺いします。

1-1. あなたの性別をお答えください。

A. 男	B. 女
122	133

1-2. あなたの出生年月を西暦でお答えください。

1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	その他
2	6	13	27	28	137	39	4

1-3. あなたの現在の学年をお答えください。

A. 1年	B. 2年	C. 3年	D. 4年
197	15	27	17

1-4. あなたの所属する学部学科をお答えください。

A. 外国学部 英米学科	B. 外国語学部 中国学科	C. 外国語学部 国際関係学科	D. 経済学部 経済学科	E. 経済学部 経済情報学科	F. 文学部 比較文化学科	G. 文学部 人間関係学科	H. 法学部 法律学科
6	5	9	11	27	4	66	17
I. 法学部 教養科学科	J. 国際環境 工学部エネルギー 一循環化学科	K. 国際環境 工学部機械システム 工学部	L. 国際環境 工学部情報メデ イア工学科	M. 国際環境 工学部建築デザ イン工学科	N. 国際環境 工学部環境生命 工学科	O. 地域創生学 部地域創生学類	
3	18	5	11	35	20	19	

1-5. あなたが高校卒業時に住んでいた都道府県を記入してください。海外の場合には国名を記入してください。

福岡	山口	熊本	大分	広島	長崎
131	16	16	15	14	8
鹿児島	愛媛	高崎	沖縄	佐賀	その他
8	7	5	5	5	24

1-6. あなたの通っていた高校は以下のうちどれでしたか。あてはまるものを全てに○をつけてください。

A. 共学	B. 男女別学	C. 国公立	D. 私立	E. 中高一貫	F. 大検
212	28	188	41	31	1

1-7. あなたの高校卒業後から本大学への進学までの期間は以下のうちどれですか。

A. 高校卒業直後に入学	B. 1年以上の浪人を経験	C. その他
230	18	6

1-8. あなたはどの形式の入学試験で本学に入学しましたか。

A. 一般入試	B. 推薦入試	C. AO入試
180	64	8

1-9. 受験した時の志望度についてあてはまるものを選んでください。

A. 第一志望	B. 第二志望	C. 第三志望以下
149	49	55

1-10. あなたの兄弟・姉妹について、あなたを除いた人数のうち、あてはまるものを選んでください。

A. なし B. 一人 C. 二人 D. 三人 E. 四人以上  
※集計していない。

1-11. 現在のあなたの住まいについて、あてはまるものを選んでください。

A. 自宅	B. 一人暮らし	C. 大学の寮	D. 大学以外の寮	E. その他
110	136	5	4	1

1-12. あなたは日本学生支援機構（旧日本育英会）の奨学金（後で返済が必要）をもらっていますか。

A. はい	B. いいえ
131	123

2. ここからは、あなたの大学選択と現在の大学キャンパスでの生活に関してお伺いします。

2-1. あなたが大学へ進学した理由として、次のことはどれくらいあてはまりますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	ぜんぜんあてはまらない
将来の仕事に役立つ勉強がしたいから	107	109	31	9
専門的な研究をしたいから	66	106	63	21
興味・関心がある分野について勉強したいから	137	83	25	10
幅広い教養を身につけたいから	75	126	47	8
大卒の学歴がほしいから	130	84	33	9
資格や免許を取得したいから	74	96	65	21
すぐに社会に出るのが不安だから	74	79	65	37
自由な時間を得たいから	76	86	63	30
周囲の人がみな行くから	56	79	72	49
先生や家族が勧めるから	43	82	80	51

2-2. 志望学部・学科を決めるとき、次のようなことはどれくらい影響しましたか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	とても影響した	やや影響した	あまり影響しなかった	ぜんぜん影響しなかった
得意な科目	109	78	52	17
苦手な科目	91	59	79	27
興味や関心をもっていること	146	80	21	8
希望している職業	90	78	56	32
部活動での経験	19	14	91	132
模擬試験の結果	54	84	58	59
進路に関する授業や学習	35	91	83	47
職場体験	4	16	90	146

2-3. 現在通っている大学や学部・学科に進学を決めるときに重視したことは何ですか。あてはまる記号すべてに○をつけてください。

A. 専攻したい学問分野がある	177
B. 入試科目・選抜方法があっている	158
C. 入試の難易度があっている	133
D. 自宅から通える	94
E. 資格・免許がとれる	59
F. 校風やキャンパスの雰囲気が良い	82
G. 伝統や知名度がある	25
H. 授業料が安い	125
I. 施設・設備が良い	37
J. 総合大学である	30
K. 就職のための支援が充実している	32
L. 親元を離れられる	56
M. 大都市にある	14
N. 大学院が設置されている	9
O. 有名な教員、優秀な教員がいる	12
P. 自分の入りたいクラブ、サークルがある	20
Q. 奨学金制度が充実している	3
R. 親、先輩、友人など周囲の人のすすめがあった	54
S. 留学制度など国際的な環境がある	27

2-4. あなたが2-3で○をつけたものの中で、特に重視したことを3つまで選び、番号を回答欄に記入してください。選択肢にない場合は具体的にお書きください。

A. 専攻したい学問分野がある	139
B. 入試科目・選抜方法があっている	110
C. 入試の難易度があっている	91
D. 自宅から通える	67
E. 資格・免許がとれる	31
F. 校風やキャンパスの雰囲気が良い	35
G. 伝統や知名度がある	5
H. 授業料が安い	74
I. 施設・設備が良い	7
J. 総合大学である	7
K. 就職のための支援が充実している	11

L. 親元を離れられる	31
M. 大都市にある	8
N. 大学院が設置されている	4
O. 有名な教員、優秀な教員がいる	6
P. 自分の入りたいクラブ、サークルがある	7
Q. 奨学金制度が充実している	0
R. 親、先輩、友人など周囲の人のすすめがあった	26
S. 留学制度など国際的な環境がある	15

(記述式回答)

- ✓ 国公立ということ
- ✓ 授業料の安さ
- ✓ 数学、英語苦手、国語、社会得意 第一志望の私大に失敗→同じ入試の科目だから受けやすい
- ✓ とにかく現場にでれるということ
- ✓ 地創の存在
- ✓ 実習が主ということに魅力を感じた
- ✓ 自分を成長させることができると思ったから
- ✓ センター試験に失敗したから
- ✓ 常識を身につけるため
- ✓ 国公立である
- ✓ センター試験の点数
- ✓ 中学3年まで福岡に住んでいたため

2-5. 次のような大学に関する情報源はどれくらい参考にしましたか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	とても参考に にした	やや参考に した	あまり参考に しなかつ た	ぜんぜん参 考にしなかつ た
大学の入学案内やパンフレット	114	97	20	21
進学に関する本や雑誌	37	95	74	44
高校が提供する進路指導の資料	55	97	54	45
オープンキャンパスや公開授業	51	51	44	104
大学説明会・相談会	32	48	60	110
大学のホームページ	57	81	61	51
塾・予備校が作成した資料	10	37	69	133

参考にした情報源が選択肢にない場合は具体的にお書きください。  
また、入学前にこんな情報があったらよかったという情報があれば、お書きください。  
(記述式回答)

- ✓ インターネットで教員について調べた
- ✓ 北方キャンパスとの連携
- ✓ 実際の授業体験
- ✓ 実習がメインであるという情報
- ✓ 地元の知り合いの情報
- ✓ 先生にすすめられて
- ✓ 先輩の1日とかどうというキャンパスライフをおくっているのか各学部ごとに。
- ✓ 先輩の話
- ✓ その学部・学科で受講できる講義についても知っておきたかった
- ✓ 大学の教授が高校に来て、体験授業をしたこと
- ✓ 大学の時間割の例
- ✓ フォーラム
- ✓ へんさち
- ✓ 実際に北九大に通っている先輩の話
- ✓ 進路指導の教師の勧め
- ✓ 推薦入試の過去問題がほしかった
- ✓ 先輩が通っていた 先生がすすめてくれた
- ✓ 特になし

2-6. 入学前に考えた大学キャンパス生活と実際のキャンパス生活にギャップを感じることはありますか。あてはまる記号1つに○をつけてください。

A. よくある	B. 時々ある	C. あまりない	D. ぜんぜんない
62	115	64	11

2-7. 2-6でAまたはBに○をつけた場合、ギャップの理由についてあてはまる記号すべてに○をつけてください。

A. 選んだ学部・学科と自身の関心・興味	54
B. 選んだ学部・学科と将来の進路	38
C. 授業の難易度	62
D. 授業の進め方・教員の指導方法	89
E. クラブ・サークル活動	49
F. 友人関係	36

G. その他

(記述式回答)

- 意外と時間がない
- 色々きつい
- 思ったよりも授業のコマ数が少ないこと
- 学生生活
- 課題に気をとられすぎてやりたい英語の勉強をちゃんとできてきていない
- 課題の多さ
- 課題の量
- 学校の設備
- 北方との連携授業があるのは知っていたが、授業で北方の人と関わるでもなく、これほどまでムダな時間を過ごすとは思っていなかった。
- キャンパスの回りになにもない
- 高校生のときとあまり変わらない忙しさ
- 高校よりきびしくない
- 施設、設備面があまり十分と言えない。
- 施設の大きさ
- 実習前のミーティングの時間がたくさんあること
- 自由な時間
- 自由な時間が少ない
- 大学生って、荷物が軽くなると思っていて。もっと暇人になれると思っていた。
- 地域性
- 通学や課題による多忙さ
- ひびきのでずつと学びたかったのに北方に来たこと
- 補講が多すぎる
- もっと楽だと思った
- レポートの量
- 授業の多さ。7 限まである日もあり、高校の頃と同じぐらいきつい。
- 周囲とのレベルの違い。一般常識が備わっていない/無気力な人が多い印象。授業以外の場、ディスカッションや日常生活の中でそれはさらに顕著に感じた。

2-8. 現在通っている学部・学科とは異なる学部・学科に入ったほうがよかったと思うことはありますか。A を選んだ場合、その理由についてお聞かせください。

A. よくある	B. 時々ある	C. あまりない	D. ぜんぜんない
26	66	67	94

(記述式回答)

- 面白くない
- 今通っている学部・学科では将来なりたい職業につけないから
- 英語のほうが実践的だと思っから
- 外国語学部に入学したかった
- 希望していた学部ではないから
- 自分の興味あることを学べるから
- 自分の志望したかった学問ではないから
- 自分の学びたいことと違ったから
- 自分のやりたいことがないから
- 女子が多い文系に行きたかった
- 心理学に興味をもつようになつたから
- 少し分野が異なる
- 第一志望の大学に興味のある学科があったから
- 他学部の授業をうけて、すごくおもしろいし学ぶことが楽しいから。
- つまらな
- つまらな、本当に
- 得意科目の歴史があまり活かせない
- ノリで進路を決めてしまった経緯があったりして (笑)、いろいろと困るかもしれないが、私はこれで (今のところ) 良かったのだと思っている。
- 法律がたのしそう
- ほしい資格とれない
- ほぼ予想どおり
- 本当は英語がしたかった
- 留学制度がととのっていない
- 英語の授業のレベルが低いから
- 第一志望の学部ではないから

2-9. あなたのこれまでの大学キャンパス生活は充実していましたか。

A. とても充実していた	B. 概ね充実していた	C. あまり充実していない	D. ぜんぜん充実していない
64	156	25	7

2-10. 北九州市立大学に満足していますか。C または D を選んだ場合、その理由についてお聞かせください。

A. とても満足している	B. 概ね満足している	C. あまり満足していない	D. ぜんぜん満足していない
57	154	26	7

(記述式回答)

- ✓ 面白くない
- ✓ 学食を広くして欲しい
- ✓ 学生の民度が低い
- ✓ 学校ボロボロすぎ
- ✓ 北方交流について実験台にされた気分がするから。
- ✓ 資格があまりとれない
- ✓ 自分のやりたいことができなから。
- ✓ 志望校というわけではなかったため、知名度など劣っている所をまだ意識してしまっている
- ✓ 想像していたものと違ったから
- ✓ 想像していたものと違ったから
- ✓ 想像していたものと違ったから
- ✓ 大学がコンパクトすぎて移動しやすい
- ✓ 地下バーがせまい。こむ
- ✓ 必修授業が多すぎる
- ✓ プールがないから！
- ✓ 文系と関わるものが少なくない
- ✓ ムダだと思ふ授業が多いから
- ✓ メインである実習が心から楽しめないから
- ✓ もっと自分の時間がもてると思った
- ✓ もっとレベルの高い大学に行きたかったから。
- ✓ 何をもっと大学に満足するか未だにわからないから
- ✓ 楽しくない
- ✓ 環境として、周りに遊んでばかりいる学生が多すぎる。
- ✓ 教室のエアコンが効いていないこと 英語教育の少人数化をもっと少人数にしてほしい
- ✓ 工学部なのに、実習が少ない
- ✓ 授業がつまらない
- ✓ 大学教員との関わりが少なさ 事務職員の教育者としての意識の低さ 教職課程 (教員採用試験対策の不十分さ)
- ✓ 同じ授業でも講師によって内容や評価方法などに差がある。昼間の学生なのにもかかわらず、他の授業との兼ね合い、夜間の授業を取らざるを得ない授業がある。

2-11. 将来、海外で働く経験をしたしたいと思いますか。

A. 強く思う	B. やや思う	C. あまり思わない	D. ぜんぜん思わない
52	75	75	51

今回の調査で回答した内容について、自由に意見をお書きください。今後の調査の参考にしたいため、今回の質問の答えやすさや長さ等についてもご意見がいただければ、幸いです。

- あと1ページぐらい追加しても問題なさそう
- 簡潔で答えやすかった
- 簡単な質問だったので答えやすかったです。
- 記述欄があまりなくて良かった
- 北方、ひびきの交流DAYはなんのためにあるのか分からない
- 北九大に来て思うこと。地域の人にやさしい取組が多い
- 教室が暑いです。エアコン等おねがいします。
- 教室が暑すぎます。汗でプリントがぐちゃぐちゃになります。そろそろエアコンをつけてもらえませんか。
- 具体例の記述欄があつて意見を書きやすかった
- 現象の判断がつくことを書きたくない
- 交流DAYはあまり意味がないと思う
- 答えやすい。調度いい長さだと思う。
- 答えやすい質問だったと思う。
- 答えやすかったです
- 答えやすかったです
- 答えやすく、長さもよかったです。
- 答えやすさ、長さ共に調度良いものだと思います
- このままで
- 自分が大学に入った動機を思いかえし、今の自分にそれがどうなのか聞いてほしい機会になりました。
- 集計がばつぱつてください。お疲れさまです。
- 性的マイノリティの人は性別をはっきりと答えられない場合があると思います。
- 専門知識は3年から勉強がはじまって、ちよつと運いと思つた。特に、なぜ外国人は英語の勉強ができない。なぜ外国人は特別の授業を配置しているのか、なぜ特別の授業の時間と英語の授業の時間が同じなのか。
- 大学生活は人それぞれだと実感した
- 大学にいる意味が特にならないので、2学期に入って頃合いをみてやめようと思つている。まじで。
- 大都市になるというところに疑問を感じました。北九大って大都市のなかにあるんですかね・・・。
- チェックのマークが大きくてとても見やすかったです。
- 調査ガンバレ！
- ちよつとよいと思ふし、答えやすかった。
- 通学に時間を用し、また、北方キャンパスのひととの交流もあまりないので、この北方ひびきの交流DAYはあまりいいみないと思う。
- 特にありません
- 特になし
- 長かった
- 長さは適当だと思ひます。質問も答えやすかったです。
- ポリユーマーであった

- 毎週木曜日にある北方交流DAYは無駄だと思う。
- まだ入学から数か月しか経っていないというのもあって、まだまだ私が知らない北九大とこういうのもあるとは思いますが、一応入学前から本学のこととは、いろいろと知ってはいたし、周囲の意見（私が北九大に行く、または行っている）は様々なが、私自身は本学にとっても満足しているつもりである。今後も全力で頑張っていきたい。今回の質問に関しては、答えやすかった。調査ががんばってくださ
- い。
- 洋式べんじょが少ない
- 記号が多く、答えやすかったです。
- 自分を振り返る良い機会となった。 質問は、簡潔で、分かりやすかった。
- 質問が短くて、答えやすかったです
- 質問が分かりやすく、とても答えやすかったです。
- 質問が簡潔で分かりやすかった。 答えに窮することなく素直に答えられるような質問になっていたと思います。
- 質問の数はちょうどいいと思います。大学生活にギャップを感じる理由が答えづらかったです。
- 質問量がちょうどいい
- 質問内容は答えやすく、長さも丁度よかったです！
- 授業がつまらない。授業が難しくくて15回出席してレポート提出し、最終テストを受けても単位をとれない。
- 素直に答えることができました。
- 長さ、答えやすさともに適切だったと思う。